

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

| | |
|------------|---|
| (1) 学校教育目標 | 「誠実」「勤勉」「公正」の校訓の精神のもと、あらゆる教育活動をとおして、よりよく問題を解決する力や豊かな人間性、健やかな体などの生きる力を育むとともに、産業の担い手としての資質・能力を身に付けさせ、社会の発展に貢献できる人材を育成する。 |
| (2) 現状と課題 | 今日の地域状況をふまえ、意欲ある生徒を確保し、次代を担う職業人を育成することが本校の役割と考える。そのため、特色ある取り組みや進路状況等を確実にアピールしていくこと、基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着に継続して取り組むこと、キャリア教育を更に充実することが必要である。その上で、各学科の教育内容をいかしながら、新しい理論や技術等を導入したプロジェクト学習等を積極的に推進していかなければならない。 |
| (3) 重点目標 | 1 基礎・基本の習得と定着を図り、実社会で必要となる主体的に学習に取り組む態度や思考力、判断力、表現力などの能力を育成する。 |
| | 2 農業や環境、地域社会に関する学習を深め、生命や自然、郷土を大切にすることや他を思いやる心などの豊かな人間性を育成する。 |
| | 3 食育や健康・安全教育への取り組みを推進し、たくましく生きるための健康や体力、安全で快適な生活を送ろうとする態度を育成する。 |
| (4) 結果の公表 | 本校ホームページに掲載する。 |

| | |
|------------|----------------|
| 学校整理番号 | 30 |
| 学 校 名 | 青森県立柏木農業高等学校 |
| 全日制の課程 | 校舎 ・ 分校 |
| 自己評価実施日 | 令和6年12月20 日(金) |
| 学校関係者評価実施日 | 令和7年2月7 日(金) |

| |
|---|
| (9) -イ 学校関係者評価委員会の構成 |
| 学校評議員 5 名 (地域産業界 (2)、農林行政 (1)、安全教育関係 (1)、保護者代表 (PTA 会長 1)) |

| 自 己 評 価 | | | | | 学校関係者評価 | (10) 次年度への課題と改善策 |
|---------|----------|--|--|------------|---|--|
| 番号 | (5) 評価項目 | (6) 具体的方策 | (7) 具体的方策による目標の達成状況 | (8) 目標の達成度 | (9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等 | |
| 1 | 学習指導の充実 | (1) 基礎的・基本的な学習内容の重視と自己教育力の育成を図る。 (2) 計画に沿った授業を展開するとともに、個に応じた指導と評価の研究を行う。 (3) 本校志願者数の増加に向けた取り組みを行う。 (4) ICT教育の充実 (ICT教材の積極的活用) | ・ 1 学年の 3 教科で導入したチームティーチングの効果が大きい。 ・ 6 月に実施した各学年の情報交換会で生徒の情報を共有し授業改善につなげた。 ・ 6 ～ 7 月に中学校訪問を実施したが、学科主任の負担が大きかった。 ・ 各教室にあるプロジェクターや 1 人 1 台端末の授業での利用が定着しつつある。 | B | ・ 第 1 回の会議では、個々への対応をよくしたいと聞いていたが、チームティーチング等の対応がよかったのではないか。 | ・ 授業について、準備を整えて授業開始を迎える習慣をつけさせたい。 ・ 拍農タイムで学び直しや読書を実施するなど、内容の見直しを提案したい。 ・ 中学生の「高校体験入学」の準備を計画的に進め、学科の魅力を伝えられるようにしたい。 |
| 2 | 生徒指導の充実 | (1) 基本的生活習慣の確立、法令・校則の遵守、安全に関する指導の徹底を図る。 (2) 教師と生徒と良好な人間関係の構築を図り、生徒の悩みや問題行動を発見できるように努める。 (3) 生徒理解を深め、生徒一人一人の特徴に応じた指導の充実を図る。 | ・ 生徒理解に努め、生徒の特性を観察することで、生徒個々に合わせた生徒指導に心がけた。 ・ 分掌を超えた協力を求めたり、生徒・保護者・担任・学年・学科と連携をとりながら指導することに心がけた。 ・ 各担任、学年に対し、学校生活調査において少しでも不安のある生徒に対し、面談を実施してもらい、早期解決を図ることができた。また、友人トラブルについては、スクールカウンセラーを活用しながら対応することができた。 | A | ・ 生徒指導について、個々に対応しており、いじめ等がゼロは対応がよかったからではないか。 ・ 時と場面に応じた生活態度ができるように指導をお願いしたい。 | ・ 基本的生活習慣及び規範意識の低い生徒に対する対応については、生徒に応じたきめ細やかな指導を進めていきたい。 ・ 防災や交通安全に関しては、防災訓練、交通安全教室、HR 活動、全校集会等を使用しながら、今後も指導を進めていきたい。 ・ 特別な支援が必要な生徒への指導においては、外部の力を借りることはもちろん、教員がより深い知識と実践的な指導方法等を習得できるように、外部研修の機会を増やし、また校内研修の充実にも取り組んでいきたい。 |

| | | | | | | |
|---|------------|---|---|---|---|--|
| 3 | 進路指導の充実 | <p>(1) 生徒が主体的に進路選択できるように、計画的、組織的、継続的な指導に努める。</p> <p>(2) 望ましい職業観・勤労観の育成に努める。</p> <p>(3) 進学・就職情報の適切な収集・整備・提供に努める。</p> | <p>・学科や学年の意向を尊重し、生徒が希望する職業、上級学校の進路決定を目指してきた。</p> <p>・生徒の希望と教師側の考えが一致しない場合もあったが、概ね生徒の進路達成はできた。</p> | A | <p>・進路状況等が確認できた。生徒それぞれに応じた進路状況であったし、これらも進路指導をお願いしたい。</p> | <p>・早期離職者が出ることを防ぐために、自己決定、自己選択をする力や責任能力などの育成が必要であると考えている。</p> <p>・校内で行われるオンライン説明会、就職試験、適性検査等の教員間の対応方法を共有する必要がある。</p> <p>・進路について、情報提供や動機付けを促し、小論文・面接指導に早期に着手し、さらなる指導体制の充実を図っていく。</p> |
| 4 | 農業・環境教育の充実 | <p>(1) 実験・実習指導の充実と実習環境の整備に努める。</p> <p>(2) 課題研究の充実や新技術開発についての研究を推進し、情報発信する。</p> <p>(3) 生涯学習センターとしての整備環境と学校開放に努める。</p> <p>(4) 「りんご栽培に関する教育」の推進に努める。</p> | <p>・年間計画に基づいて実験実習を行うことができた。</p> <p>・平川市との植栽活動やカボチャの産地化計画、米粉専用米をもとに米粉麺を開発し、地域食文化の創造や企業、公共団体と協働し、研究に取り組むことができた。</p> <p>・年間を通じて地域の保育園や教育機関など、ヒューマンサービスに関する授業や行事を中心に実施することができた。</p> <p>・昨年度に引き続き、リンゴ・コメでのGLOBAL G. A. Pの取り組みや、リンゴ剪定枝を活用した燻製チップの開発など、リンゴに特化した教育を展開できた。</p> | A | <p>・他校では、できない体験をし、先生方も熱意をもって活動している。わくわく感が子どもたちにも伝わっているのではないかな。</p> <p>・家や普通学校では、できない実習・体験ができることを小・中学校へアピールしていけばいいのではないかな。</p> <p>・農業実習の様子など、楽しそうなところを親が知る機会があればいいと思う。</p> | <p>・地元の農家ででの作業体験（起農塾）を更に充実させ、1年生から農業への興味・関心の意識付けをおこなう。</p> <p>・地元農家や企業等と連携して各学科の特色を生かした研究活動や地域支援活動等を行ったり、海外研修を実施するなど、キャリア教育やグローバル教育の推進につなげたい。</p> <p>・販売実習における接客の経験はキャリア教育の観点からも意義があるため、さまざまな場所で販売実習を計画し、より多くの地域の方に販売実習を周知する方策として広報活動を強化したい。</p> |

| | |
|---------|--|
| (11) 総括 | <p>本校の抱える学校課題を一つずつ解決していきながら、特色ある教育活動内容を常に検証していく。また、これまで地域に信頼されてきた本校のさらなる発展となるよう進めていく。進学及び就職のそれぞれを希望する生徒の進路志望達成のみならず、一人一人の生徒が社会人として生きていけるための支援を積極的に行っていく。</p> |
|---------|--|